

## UDLチェックリストver.1.4(1)

	項 目	評 価
1 多 様 な 提 示 方 法 の 提 供	(1)学習理解のための基本的な支援	
	ことばだけではなく、視覚的手がかりを活用する(絵、写真、図、文字、動画など)	
	I C T機器を活用する(プロジェクター、大型ディスプレイ、パソコン、インターネットなど)	
	視覚情報の理解を支援するため、絵や図、写真、記号などの意味や内容をことばでわかりやすく説明する	
	(2)使用する用語や記号理解のための基本的な支援	
	学習に使用する重要な用語を明確にし、定義を説明する	
	漢字が読めない子どもの教材に使用する漢字に仮名をふる	
	数学で使用する記号や公式をわかりやすく説明する	
	学習の重要な事柄(公式や図など)はできるだけ提示する時間を長くする	
	理科で使用する記号や公式をわかりやすく説明する	
	各教科の特性上の困難さを想定し、理解のための支援を提供する	
	(3)授業内容理解の基本的支援	
	①板書の工夫	
	字を大きくしたり、間隔を開け、見やすく書く	
	要点理解ができるよう、色を変えたりアンダーラインを引いたりする	
	黒板を分割して利用するなど、ゆっくり板書できるように工夫する	
	板書ができない子どものために、デジカメなどで板書内容を提供する	
	②指示・説明の工夫	
	指示や説明をする時は、教師に注目していることを確認する	
	指示や説明が理解できているか、行動観察や質問により判断する	
	指示や説明は短く、具体的に、肯定的な表現を使う	
	メリハリのある言い方をする	
	全体に指示を出したあとで、適宜、個別に指示する	

### このチェックリストの使い方

1. 実行してみたい、実行の必要性がある、実行できる項目を選択します
2. 指導案の中に、選択した項目の内容を設定します
3. 計画通り実行できたかどうか、自己評価します
4. 生徒の学力を評価し、UDLの効果を検証します

## UDLチェックリストver.1.4(2)

	項 目	評 価
2 多 様 な 表 現 方 法 の 使 用	(1)子どもの主体的な意思表示を促進する支援	
	答えやすいように解答の選択肢を提示する	
	何でも言える雰囲気づくりに努める	
	失敗に対して寛容的な雰囲気作りに努める	
	子どもの発言を積極的に聴く	
	積極的に発言できるよう、考えをまとめる時間を確保する	
	どんな意見でも、発表できたことをほめる	
	ことばにかかわる意思表示手段(身振り、絵、文字、VOCAなど)を積極的に認める	
	子ども同士の意見交換ができる時間を確保する	
	子ども同士の話し合いのルールや方法を提示する	
	授業の中に多様な活動を取り入れる	
	(2)子どもにICT機器などの使用を認める	
	書字やノートが苦手な子どもに、パソコンなど代替りの手段を認める	
	eラーニングなど、インターネットを活用した学習を提供する	
	学習の促進や補助を目的としたアプリを使う	
	タブレット型コンピューターによる学習を認める	
	デジタル教科書を使用する	
	ICTによる双方向の学びを保障する	
	(3)実技系教科への参加を促進する	
	楽器演奏や歌唱が苦手な子どもに、その子ができる別の表現方法を認める	
	描画や制作が苦手な子どもに、その子ができる別の表現方法を認める	
	体育が苦手な子どもに、基準を変えるなど参加しやすい支援をする	

このチェックリストは、次の文献を参考に作成しました

CAST(2008):Universal Design for Learning Guidelines ver.1.0

## UDLチェックリストver.1.4(3)

	項 目	評 価
3 主 体 的 な 学 び を 保 証 す る 多 様 な 方 法 の 提 供	(1) 自己管理や自己解決のための支援	
	授業のはじめに、授業に必要な物が準備されているか確認する	
	スケジュール表で、1時間の授業の流れ(学習課題や活動など)を示す	
	授業に集中し、積極的に参加できるように座席の配置を工夫する	
	問題の解き方がわかるような資料や教材を提供する	
	問題の解き方がわかるようICTを活用する	
	学習に集中して取り組めるよう、集中を妨げるものを極力排除する	
	問題や説明の内容が分かるように図や絵を使って考える方法を教える	
	自分で調べる方法やツールを提供する（辞書、インターネット、コンピュータソフト、図書館など）	
	子どもが学習や課題に取り組める時間を最大限確保する	
	一人で学習するのがむずかしい子どもに机間巡視で対応する	
	学習補助員や複数担任などのチームティーチングを導入する	
	(2) 学習への意欲を高めるための工夫	
	子どもの答えや活動の結果を賞賛する(注意や助言より多く賞賛する)	
	正答ではない解答やうまくいかなかった結果に対しても、その努力を認める	
	達成感のある課題を出す	
	子どもが一人で取り組み、解決できるレベルの課題を提供する	
	ペアやグループなど、子ども同士と一緒に学習に取り組める活動を取り入れる	
	学んだことが定着できるよう繰り返し学習を導入する	
	学習の結果（プリント類、作品など）について、できていることをほめたり認めたりする	
	(3) 学習のセルフモニタリング(自己監視)や自己評価の導入	
	授業の前に本時の学習の目標(重点)を確認する	
	授業の前に守るべきルールやめあてを確認する	
	本時の学習の振り返りが自己評価できるよう、チェックリストを使う	
	本時の学習の目標(重点)達成確認のための小テストを実施する	
	ルールが守れたかセルフモニタリングできるよう、チェックリストを使う	
	学習内容がわからなかったり、できなかったときの対処方法を教える	
	(各教科の) 学力の客観的自己評価ができるよう、チェックリストを使う	